

令和7年度第4回青少年問題協議会専門部会について（報告）

令和7年2月14日に開催された専門部会でヒアリングを行いましたので、次のとおり報告します。

<認定NPO法人キッズドア様より>

- 2023年7月から2024年3月にかけて、こども家庭庁の「NPO等と連携したこどもの居場所づくり支援モデル事業」の一環として、困窮家庭の子どもたちを対象にオンライン居場所の試行が行われた。

（取組内容）

- ・現状、ニーズ調査（キッズドア、ファミリーサポート登録世帯の保護者等）
 - ・様々なオンライン居場所の試行
 - ・オンライン居場所の在り方の検討とレポート
- ネット接続環境、オンライン居場所のニーズ等についてアンケート調査を実施して、居場所設計、準備を行い居場所支援試行した。（参考資料6の7ページ参照）
 - アンケートの回答者（保護者）は母子世帯が9割を占めている。就労形態は半数が非正規雇用である。その世帯の所得は、200万円未満が半数を超えており、300万円未満が8割超を占めている。（参考資料6の12ページ参照）
 - 家庭のインターネット環境については、所得が低い層ほどインターネット回線が無い割合が高い。（参考資料6の14ページ参照）
 - 子どもの所有するデジタル端末については、スマートフォンを持っている小学生は36%、中学生は79%、高校生世代は95%である。自由に使用できるPCの所有率は小学生28%、中学生32%、高校生世代62%である。
中学生と高校生世代では、所得が高い層ほどスマートフォン所持率が高い。（参考資料6の15ページ参照）

- 子どものデジタル端末利用に対する保護者の考えは、子どもの年齢に問わず「ある程度であればすべき（デジタル端末利用を）」という意見が最多であった。年齢が上がるほど肯定的な意見が増加していた。（参考資料6の16ページ参照）
- デジタル端末利用に否定的な理由としては、ネット上のトラブルや不適切な情報に触れてしまう危険があるためであった。（参考資料6の16ページ参照）
- 子どもに体験させてみたいオンライン居場所については、「プログラミング」が約半数と最多であった。（参考資料6の17ページ参照）
- 子どものオンライン居場所に期待する効果や役割では、「学習支援」が半数近い。その次に「人とのおしゃべり、社交」や「カルチャー体験」であった。（参考資料6の18ページ参照）
- 子どものオンライン居場所利用に関する不安や心配は、「人間関係のトラブル」と「インターネット詐欺、ワンクリック詐欺」が半数以上であった。
不適切な情報や利用料金、視力低下を懸念する回答も4割程度あった。特に不安や心配はないとの回答は1割程度であった。（参考資料6の19ページ参照）
- 高校生世代が参加してみたいオンライン居場所の上位は、「オンラインゲーム」、「料理教室」、「トークルーム・チャットルーム」であった。（参考資料6の20ページ参照）
- 高校生世代がオンライン居場所に期待する効果や役割の上位は「人とのおしゃべり・社交」、「学習支援」、「リラクゼーション」も3割を超えていた。（参考資料6の21ページ参照）
- 高校生世代のオンライン居場所利用に関する不安や心配で最も多かったのは、「利用料金（回線料金）」であった。その次には、「人間関係のトラブル」、「インターネット詐欺、ワンクリック詐欺」も3割超であった。（参考資料6の22ページ参照）

- アンケート調査では、高校生世代と保護者の回答の違いがあった。参加してみたい/させてみたいオンライン居場所や期待する効果・役割が異なる。(参考資料6の23ページ参照)
- 不安や心配は保護者と子どもで共通する部分が多いものの、「特に不安や心配はない」との回答は子ども24%に対し、保護者は15%に止まる。(参考資料6の23ページ参照)
- オンライン居場所参加時のカメラについては、「カメラをオンにたくない」との回答が6割であった。子どもと保護者共に「顔が映るのが嫌」、「家の中が映るのが嫌」という理由が上位であった。(参考資料6の24ページ参照)
- アンケート調査の結果、小学生、中学生は学びや体験要素のあるオンライン居場所（小学生は保護者同伴）、高校生以上は対人コミュニケーションスキル向上を目的とした相互コミュニケーションのオンライン居場所が求められている可能性が高い。(参考資料6の27ページ参照)
- 実施したオンライン居場所は、オンラインお料理教室、プログラミング教室等がある。(参考資料6の29ページ参照)